

急性心筋梗塞患者における退院時 β ブロッカー投与割合

本指標は日本病院会における QI プロジェクトの指標を参考に、DPC 分析ソフト「ヒラソル」を用いて、下記の定義に基づき算出しております。「ヒラソル」にて他施設も同条件で算出することにより、一定程度の施設との比較をすることが可能となります。

<指標の説明・定義>

急性心筋梗塞発症後の長期予後を改善する目的で、 β -遮断薬の投与は、日本循環器学会ガイドラインで推奨されています (<http://www.j-circ.or.jp>)。この処方率は海外の医療の質の評価指標としても採用されており、広く認識された指標であるといえます。

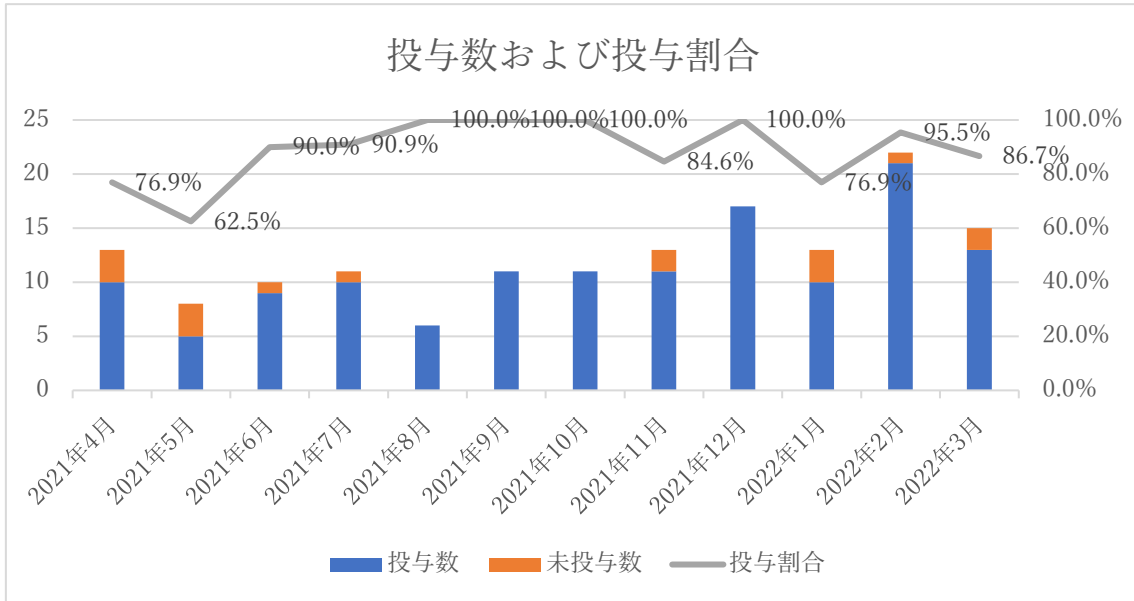
本指標は下記の定義に基づき算出しており、値が高いことで、治療の「プロセス」を評価できます。

■分子： 分母のうち、 β ブロッカーが投与された症例数

■分母： 急性心筋梗塞で入院した症例数

- 収集期間： 2021年4～6月分、2021年7～9月分、
2021年10～12月分、2022年1～3月分
- 使用データ： DPC 様式 1、F ファイル、EF ファイル

<2021年度 βブロッカー投与数および投与割合>



<2021年度 βブロッカー投与割合ベンチマーク（ヒラソル登録施設）>

